



創立百五十周年に寄せて

AMDA代表 菅波 茂

(昭和四十年卒)

誠之館創立百五十周年記念を心からお祝い申し上げます。同じ学舎に学んだご縁の深い人達が数多くおられることは本当にうれいことです。当時を思い出すだけで身体の内部分からエネルギーが湧き出てきます。お世話になった個性豊かな先生方およびいろいろな同級生の表情が脳裏に浮かんできます。感性の豊かな青春を過ごすことのできた誠之館高校の思い出は尽きません。関係者の方々に改めて感謝申し上げます。

1965年4月に岡山大学医学部に入学して以来、岡山に居住しています。医療法人アスカ会および社会福祉法人遊々会の経営を基盤として、1984年に設立した国連NGOであるAMDAの活動を行なっています。AMDAは本部が岡山にあり、世界30ヶ国に支部がある多国籍NGOです。キーワードは多様性です。組織として多民族、多宗教、多文化を内包しています。その理念は「多様性の共存」です。分かりやすく言えば、物の見方や考え方が異なる人が如何にしたら共存共栄できるかということです。結論として、苦勞を共に解決する過程で生まれる「尊敬と信頼」の人間関係のみが多様性の共存を可能にすると考えています。この人間関係論を理論的支柱として世界中でプロジェクトを展開しています。

国境を越えて世界と関わるようになった契機は日本中に吹き荒れた1969年の学園紛争による博愛ストライキでした。最後のフラ

ンス郵船に乗って横浜を出発してシンガポールで下船。バンコックまで鉄道の旅。インドに渡り、アフガニスタンからイランやクエートまで10ヶ月間のほろほろ旅をしました。市場に代表されるアジアの多様性が印象的でした。アジアと医療を通して関わり続けたいと思いました。1972年にタイとミャンマーの国境にあるモン族の開拓農場に岡山大学医学部クワイ河医学踏査隊を派遣して医学調査を行なったのがAMDAの源流でした。以後毎年のように医学調査チームを派遣しました。最初のエポックが訪れたのは1978年のカンボジア難民の出現でした。1979年にタイにあるカオイダン難民キャンプに行きましたが何もできませんでした。現地と一緒に仕事をしてくれる人がいなかったのが致命傷でした。「善意だけでは何もできない」ことを痛切させられました。1980年に第1回アジア医学生国際会議をバンコックで開催しました。近い将来に医師としてアジアのために良き医療プロジェクトを行なうために医学生の中から良き人間関係を創る。これが趣旨でした。1984年にアジア医学生国際会議のOBによってアジア医師連絡協議会（AMDA）が発足しました。第2のエポックは1990年に発生した湾岸戦争でした。1兆4千億円を多国籍軍に提供したにもかかわらずクエートが感謝した30ヶ国に日本は入っていませんでした。「顔の見えない日本」。日本中がパニックになりました。顔の見える日本として未熟なNGOを育てようと外務省はNGO支援制度を、郵政省は国際ボランティア貯金を開始しました。活動資金に悩んでいたNGOにとって天の慈雨でした。AMDAがアジアやアフリカで医療プロジェクトを展開できる状況になった時に第3のエポックが訪れました。1995年の阪神大震災でした。AMDAは長田区に届け、500名の医療ボランティアを送りました。全国からか

つけたボランティアの受け皿としてNGOが大きな役割を果たしました。この活動によりNGOが社会的に認知されました。NPO法案設立の契機ともなりました。そして政府が提唱する「国民参加型国際協力」の政策の元に日本のNGOは世界の貧困対策に加えて難民や災害被災民支援に大きく成長しました。AMDAの活動もいつしかアジア、アフリカ、中南米そして東欧に拡大して行きました。更に、AMDA独自の活動としては1998年から「医療和平」の概念を提唱しています。敵対する双方に医療を通して和平を確立することです。最初の事例は40年間にわたって内戦を続けていたアフガニスタンのタリバンと北部同盟でした。二番目は、コンボのアルバニア人とセルビア人。三番目は、20年間の内戦から停戦そして復興に向かう可能性のあるスリランカです。現在進行中のプロジェクトです。

20世紀は「大きな思想」の時代でした。大きなとは死をも賭するという意味です。21世紀は「小さな心」の時代です。小さなとは個人あるいは家族という意味です。社会のパラダイムも「権威ある代理制」から「個人の直接参加制」へ移行しています。理由は情報通信技術（IT）革命です。代理制に不可欠な要素である「権威」が情報の公開と情報の流れの変化により崩壊していることです。権威の崩壊は個人の参加を容易にし、多様性に富む「個人の直接参加」を受け入れる世の中の仕組みをNGO・NPOが推進しています。

AMDAは日本発の多国籍NGOです。メッセージは「困った時はお互いさま」という相互扶助思想です。日本人の常識である相互扶助を世界の良識にするために挑戦を続けていきたいと思っています。そのためには「助かる命があれば何処へでも行く」覚悟です。AMDAに対するご理解とご支援をいただければこれに勝る喜びは

ございません。

末筆ながら、同窓の皆様方のご健康とますますのご発展を心からお祈り申し上げます。